

令和5年度 全国学力学習状況調査からわかる 本校の傾向と課題について

羽曳野市立 白鳥小学校

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【国語】

本校の国語における平均正答率は、全国よりわずかに下回る結果となりました。課題があるのが¹設問1の「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題でした。

情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにすると効果的です。情報の整理の際には、今後もICT機器を積極的に活用するなど、視覚的に捉えたりしやすくする工夫が必要であると感じます。

また、³設問2の「自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題（記述式）でも誤答が多くありました。

ただ、記述式問題が3問ある中で、序盤、中盤の2問については、全国平均、もしくは全国平均をやや下回るといった結果です。終盤の選択式問題を含めた記述式問題とのラスト2問については、無回答率が跳ね上がっていること（全国的にも）と、6年生の44.4%の児童が解答時間が「やや足りなかった」「全く足りなかった」と児童質問紙で答えていることから、真面目に丁寧に取り組むことで、「解答したくても時間が足りなかった」ということが考えられます。子どもたちはこのようなテスト形式に慣れていないことや、普段から解答時間を気にしてテストに取り組むことが少ないため、問題に慣れることも含めて、対策を検討する必要があると感じました。

国語全体でよくできていた部分は、³の設問1「インタビューの中で、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる」問題や同音異義語、敬語の問題で、これらについては全国平均を上回る正答率でした。今後も基礎基本を大切にした授業づくり

をはじめ、自分の考えをまとめ、まとめたことを相手と話し合う、伝え合う授業づくりをめざしていきます。

【算数】

本校の算数における平均正答率は、全国よりもわずかに下回る結果となりました。特に課題があるのが、**2**の設問（図形）で「底辺と高さが同じであれば面積は等しくなる性質を使って、面積の大小を判断し、その理由を記述できるかどうかをみる」問題でした。

ただ面積の公式を覚えるだけでなく、図形の意味や性質を考えて公式を導き出したり、面積を比べたりするといった学びを大切にするとともに、学びの中で自分の考えをしっかりと書き、筋道立てて説明するといった経験を増やす必要性を感じました。そこから自分の考えや意見を相手に伝えたり、話し合ったりする活動にもつなげられると考えます。

また**4**の設問（データの活用）では、百分率の意味理解に課題があることや表から条件に合う数を読み取ることに課題が見られました。複数の表やグラフを比べ、同じところや似ているところを見だし、考察したことを表現できるようになることが大切であると感じました。

「図形」と「データの活用」以外の項目については、概ね全国平均に近い正答率でした。

【児童質問紙と各教科から】

○毎日朝ご飯を食べている・・・よくあてはまる 91.1%

この項目で、よくあてはまると回答した児童の各教科の正答率が高い傾向がありました。

○毎日同じ時間に寝ていますか・・・よくあてはまる 15.6%

どちらかといえばあてはまる 66.7%

約 80%の児童が寝る時刻を決めて睡眠をとっているという結果でした。この項目の児童もどの教科でも正答率が高い傾向がありました。

○自分にはよいところがあると思いますか・・・よくあてはまる 40.0%

どちらかといえばあてはまる 46.7%

この項目で、あてはまると回答した児童の各教科の正答率が高い傾向がありました。

○自宅には本がどれくらいありますか（教科書は除く）

本の冊数が増えるにしたがって、正答率が上がる傾向がみられました。

以上の結果を踏まえ、今後の各教育活動にいかしていくとともに、引き続き、朝読等、本に慣れ親しむ活動を続けていきたいと思ひます。また、子どもたちに規則正しく生活することと、自他を受け入れ、さらに自分のよいところを伸ばしながら成長していける授業づくり、クラスづくり等を大切にしていきたいと思ひます。